

町の居場所づくりは

チーム新星
おおきた よしこ
大北 良子



町長 民間と行政の両方から



▲居場所づくりが始まった野添コミセン

問 不登校支援としてボランティアで運営する「みんなの居場所」が、野添コミセンで始まった。コミセンサテライト教室と今後連携する予定は。

答 コミセンサテライト教室は「サポートチーム播磨推進事業」の一環で取り組んでいる。「みんなの居場所」は野添コミセンの自主事業であり、現段階では双方で情報共有をしている。

問 「みんなの居場所」の今後の運営や指導員の配置など、行政が関わっていく考えは。

答 野添コミセンの自主

問 不登校支援としてボランティアで運営する「みんなの居場所」が、野添コミセンで始まった。コミセンサテライト教室と今後連携する予定は。

答 コミセンサテライト教室は「サポートチーム播磨推進事業」の一環で取り組んでいる。「みんなの居場所」は野添コミセンの自主事業であり、現段階では双方で情報共有をしている。

問 「みんなの居場所」の今後の運営や指導員の配置など、行政が関わっていく考えは。

答 野添コミセンの自主

町長 引き続き調査・検討していく

問 播磨町駅前の有料駐車場について、近隣住民や飲食店経営者、利用者から強い要望を聞いている。商業活性化と利便性の向上のためにも、令和4年9月定例会に引き続き質問するが、検討は。

答 地元商業が活性化することは喜ばしいことであり、駐車場を経営する民間事業者がいなか調査しているが、現時点ではそのような情報はない。

問 Bivi土山2階の書店が閉店し空き店舗となっているが、計画は。

答 事業者の所有・管轄する物件であり、出店計画に町は関与していないが、できる限り早期にテナントに入居していただくよう町としても事業者に要望している。

保育待機児童対策を

政風会
おかだ ちかこ
岡田 千賀子



町長 検討会議で施策を出す



▲園庭遊びで、元気な笑い声がはじける（西こども園）

問 厚生労働省の令和4年人口動態統計によると、「合計特殊出生率」は1.26で、出生数が過去最低の80万人割れとなり、少子化が加速している。本町における状況は。

答 出生率は1.46で出生数は240人である。

問 1歳児の保護者から「仕事が決まっていたのに入園できなかつた」と悲痛な声を聴いている。子育て環境の厳しさも少子化の原因の一つである。保育待機児童対策に、定員割れしている幼稚園などの積極的活用を。

答 有識者と保育施設幼稚園の代表者などで、

問 厚生労働省の令和4年人口動態統計によると、「合計特殊出生率」は1.26で、出生数が過去最低の80万人割れとなり、少子化が加速している。本町における状況は。

答 出生率は1.46で出生数は240人である。

問 1歳児の保護者から「仕事が決まっていたのに入園できなかつた」と悲痛な声を聴いている。子育て環境の厳しさも少子化の原因の一つである。保育待機児童対策に、定員割れしている幼稚園などの積極的活用を。

答 有識者と保育施設幼稚園の代表者などで、

問 厚生労働省の令和4年人口動態統計によると、「合計特殊出生率」は1.26で、出生数が過去最低の80万人割れとなり、少子化が加速している。本町における状況は。

答 出生率は1.46で出生数は240人である。

問 1歳児の保護者から「仕事が決まっていたのに入園できなかつた」と悲痛な声を聴いている。子育て環境の厳しさも少子化の原因の一つである。保育待機児童対策に、定員割れしている幼稚園などの積極的活用を。

答 有識者と保育施設幼稚園の代表者などで、

教育の無償化は

無所属
たけうち もとなり
竹内 基就



町長 国の動向を注視したい



▲給食は子どもにとって大きな楽しみ

問 少子化は大きな課題であるが、経済的な支援として給食費の完全無償化や、習い事の費用を助成する考えは。

答 既に第3子目以降の給食費を無償化しているが、第1子目を含む恒久的な無償化は多額の財源が必要となり困難であるため、国の動向を注視したい。

問 学費の支援については就学援助制度がある。また、貧困家庭の子どもを対象に兵庫県から委託を受けたNPO法人が学習支援を行っている。さまざまな取り組みを行って

町長 検証効果などを注視

問 内閣府によると、ひきこもり状態にある人の推定数が146万人となり大きく増えている。ひきこもり状態の長期化も懸念される中で、インターネット空間が居場所だとする人も増えてきている。町としてメタバース（仮想空間）などを支援に活用していく考えは。

答 令和5年度よりNPO法人に委託して、ひきこもり相談を月1回実施し、家族会や啓発講座も設けている。

問 メタバースとは「アバターが自由に活動できる仮想空間サービス」と考えるが、現実社会の繋がりを持てるのが大切と考えている。今後は国や他の先進地での検証結果などに注視していきたい。

ステージ前に車いすなどのスペースを

播磨町民の会
みやけ りょう
宮宅 良



町長 観覧席を設けスペースも設置する



▲野外イベントも一緒に楽しもう（はりま春風フェス）

問 はりま春風フェスでは、ステージを立ち見で観覧されていた。野外イベントでも、ステージ前に車いすなどのスペースを確保することで、誰一人取り残されずにみんなで一緒に楽しめる。スペース設置に向けた考えは。

答 野外イベントのステージ前に観覧席を設けるとともに、車いすやベビーカーなどのスペースも設置する。

問 雇用施策との連携による重度障害者等就労支援特別事業を実施して、雇用機会を創出し、支援する必要があるのでは。

町長 新たなツールとして調査研究する

問 自治体DX推進にWeb3を活用し、DAO（分散型自律組織）による地域課題の解決、ふるさと納税やNFT作品、地域通貨（トークン）の連動など、デジタル技術を本町も取り入れ、住民参画と主体性構築、地域という枠を超えた交流を本町も検討すべきでは。

答 若手職員を中心にDX推進チームを立ち上げた。協働によるまちづくりの新たなツールとして調査研究する。